

2015（平成27）年度 東京大学 入試問題 第1問 解答例

- 一 過去と現在とで不変の自分があるという見方は、本来は生成する一つの自分を、時間的に分断・対比することを前提とするから。
- 二 生成の運動は、他者からの応答によって自分の姿勢が新たに組み直され、そこでの自分らしさも他者に認められて現れるから。
- 三 他人が認める自分らしさは、現在生成する運動をではなく、一つの具体的行為を固定的に捉えたものにすぎないということ。
- 四 死によって人間の生成は終わっても、その生成の瞬間を迫体験する他人には、生成の活動が生き生きと感じられるということ。
- 五 自分とは、過去の自分を回収しつつ生成する現在の運動であり、自分の死後も他人との関係において成立し、引き出される。自身も完全には知りえない生成する自分という運動を貫く特徴は、過去の自分をどれだけ否定・逸脱できるかの瞬間的自覚にあるということ。（一二〇字）
- 六 a 獲得 b 高潔 c 依然